



仏法領 ぶつぽうりよう

第79号

「未来」

都会では、隣人を知らないと聞く。
これから先、田舎も都市化してしまうのだろうか。

しかし、未来をつくるのは私達だ。

親を敬い、隣人と挨拶し
お互いを気遣う。

しっかりと、引き継いで生きたい。

そなん未来であつて欲しい。
そなん未来にしよう。

(写真・文 大迫光造)



「自分の未来・将来って何なの?」

発行：真宗大谷派
念信寺
〒 824-0202
福岡県京都郡みやこ
町犀川上高屋761
☎ 0930-42-0329
Fax 0930-42-0502
ホームページ
nenshiji.org

日々一生懸命に生きている我々がチョット立ち止まって、自分の将来はどうなつてゐるのかを考えてみると、あるいは見通しを立てる」とは大変難しいと思う。

ほんの数年先のことを想像してみるのも大変難しいことだろうと思う。人生、一寸先は闇だともいう。

どうせ分からぬことを考えるだけ無駄だという意見もある。死ねばただ骨か、ゴミになるばかりさ、と考えるか。確かに肉体的には骨にしかなりようがない。これだと少し寂しいね。

人生は、先の見えない、自分の思い通りにならないことだらけ。だけれども、自分の将来はこうありたいと夢を見る」とはできる。人間とは不思議な存在だね！

私の好きな言葉に「なんちゅうしなむかし難中之難無過斯」というのがある。そう、この言葉は、門徒が日々あげる「正信偈」の中の一旬です。

この言葉の意味は、難しいことの多い中で、これ以上に難しいことがないものということ。難題中の難題ということ。

では、親鸞聖人は何が難題かと言つているのか。この句の前にある邪見や驕慢な心持に捉われた我々が、阿弥陀様の本願を信じる」とは難題中の難題と言つてゐるのです。阿弥陀様の本願とは、生きとし生きるすべての人間を、死後は必ずや絶対的に極楽浄土に生まれさせるという願いのこと。人々は、本当かいな？」と疑問に思う。

(阿部正紀・記)



今回は小倉北区にお住まいのYさんにお月忌の折りお願いしました。

念信寺と私



Y

(北九州市)

父が内垣の出身で、私もこの地で生を受けました。が、父の仕事の関係で内垣を離れ、行橋、苅田、小倉と移住、現在に至っています。念信寺さんとは、次の二つの出来事で御縁を戴いたと思っています。

一つは、父が他界した時（昭和五十年）の事です。お寺関係の事を理解していない事から、父の葬儀を町内の浄土真宗のお寺で行つた翌日に、念信寺の前ご住職から連絡を戴きました。「Yさんは兄弟同然であり、彼の供養は私がやる。安心しながら、彼の供養は私がやる。安心しない」と。初七日以後の法要から、念信寺ご住職の温かいお経で、父は急逝した時の事です。妹の夫もまだ嫁ぎ先の舅さんは「長男の嫁であり、



自分の家で供養をしたい」と強く申し出られました。お気持ちは有難がつたが、妹の先の供養を考え、困っていた時に、前ご住職に、先方が納得される様な説得を戴き、妹の供養はY家で行う事が出来る様になりました。お互の善意による主張であり、ご住職でなければ纏る話ではなかつたと感謝しています。

この二件の出来事は、私は忘れられない事であり、お寺との御縁を強く感じた事でした。前ご住職には父の事を教えられ、現ご住職に一度のお参りを戴く折、心和むお経とお話し合いを楽しみにしている私です。



お父様の徳一氏は技術畠の優秀な人物で地場企業の重役を務められました。念信寺ともご縁が深く、伯父の家庭教師をして頂いた恩があるそうです。いつご連絡を差し上げても、気持ちよく丁寧な対応をしてくださり、家庭の雰囲気が一朝一夕にできるものでないことを教えられます。

が体験でき感動ものでした。

次に工場内の見学に移りましたが、そこでも最新鋭の工作機械や溶接ロボットなどを駆使しており、ゴミ一つ無い清潔な工場でした。

しかし最終工程の組み立てラインで見たものは安全な機械とはほど遠い作業でした。それは、手作業でシャフトにプロペラ状のコマを取り付ける作業でしたが、作業員がプロペラの穴にシャフトを通そうとしたが入らず別のプロペラ部品で叩き入れようとして無理に押し込もうとしている姿でした。

こんな大手の機械メーカーでも作業標準を無視した作業が行われていることに驚きました。溶接の外れや、シャフトの歪みを招きかねない危険な作業

乗る前等に必ず二唱している言葉です。南無阿弥陀仏をいつも口から出るよう意識しなさいとよく言われますが、これに通ずるような感じではないかと思います。



農家の皆さんは機械の外観や性能、等でメーカーを信頼し機械を使つていますが、しかし絶対に安全とはいえません。

自分の為、家族のため、ひいては地域のために安全意識を常持つて農作業をする事が必要だと思います。

今年も1年安全第一、無事に農作業が出来ますことを願っています。

死後の一大事① 後生の極楽浄土とは？

お彼岸の季節です。彼岸とは、この迷いの世界を離れた悟りの岸のこと。お淨土の教えは、今生の住みにくさ、苦しみの多いこの世、憂き世から離れたいとう切実な願いから始まっています。

私たちは人間関係、健康、経済的不安など、欲求不満や不安を抱いて生活しています。昔の人はこの苦しみは今生だけでなく、次生も、また次も、永遠に続く輪廻すると考えました。

現代人である我々はロケットで西に飛んでも極楽浄土には行き着かないことを知っています。自然科学の知識は死ねば骨になるだけだと教えていて、私が生きることの意味を教えてはくれません。それで、せいぜい人間社会で心地よくこの世を生きていく事くらいしか考えつきません。仏教的に言うと、迷いの生存を繰り返す生き方しかできないのです。それでは生き



安全第一

尾形紘光（添田町）

安全第一、安全第一、安全第一。
この言葉は、私が農作業に出掛かる前、農業機械で作業する前、自動車に

◆故郷と私◆



Y

(福岡市在住)

私がユーターン転職したきっかけは2015年11月、それまで33年間勤務して来た田辺三菱製薬（旧田辺製薬）で早期退職の話が出たことでした。突然だったの

で転職先を探す時間が無く、思い浮かんだのは一ヶ月



前に半休して聴講した、現在の勤務先による無料のシンポジウムでした。そのシンポジウムは認知症についての研究でした。

聴講しようと思ったのは母が1998年に発症して以来、もう何も分からなくなっているのが心に浮かんだからでした。シンポジウムを主催した先生方にメールすると、幸いに面接してくれるようになりました。2015年末に採用が決まり、翌年3月に福岡市に引っ越し、4月から篠栗の近くにある、現在の勤務先に勤務しています。

思い返すと、母は認知症で何も分からなくなっていますが、現在の勤務先への縁をつないでくれたと感謝しています。

福岡市は歴史のある都市なので、散歩すると、新たな発見があります。今日も、筥崎宮で鳥居の脇に「万民

和樂」という緒方竹虎ののぼりがあり、調べてみると、生まれは山形市ながら、修猷館で学んだこと、1年上級に中野正剛（東条英機に反対して自決に追い込まれた）がいたこと、そもそも、緒方姓は祖父が緒方洪庵の適塾に入門して、洪庵と義兄弟の盟を結び、その姓を与えられること、三男の緒方四十郎の妻が緒方貞子であること等、竹虎が多彩な人脈の結節点にいたことが分かり、うれしく思っています。



Y 氏は住職と同級生でお会いする機会があり、1月11日に原稿をいただきました。お父様の S 様はじめご家族は献身的に介護なさいましたが、ご母堂 Y 様は1月25日にご命終なさいました。人欄に書いて頂いた吉田昭和氏と Y 氏は従兄弟になります。

御正忌・報恩講法要の レポート

日時 令和元年十一月二十一日（二十四日）
講師 吉元信暎先生（九州大谷短期大学教授）



報恩講の法要で

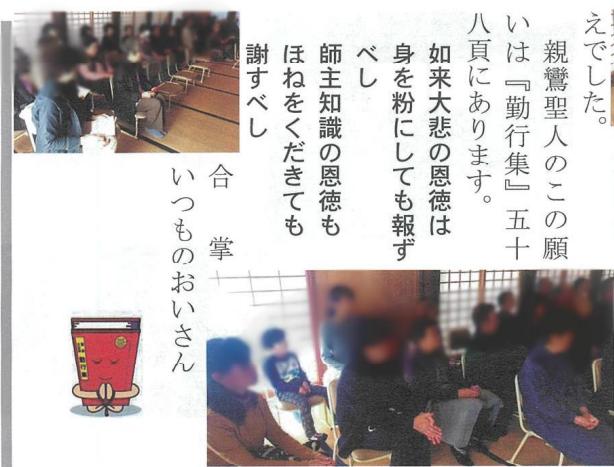
無我とは、「私というものがない」という意味だそうです。もう少し分かり易く言うと、「私たちは私があると思い、これは私のものと執着して苦しみます」。コロコロと変わる私の心には実体はない、私というものはないというのが無我だそうです。意味深です。仏教だけに説かれた言葉です。



御正忌のお齋



御正忌夜、鍋を囲んで



如來大悲の恩徳は身を粉にしても報ず
八頁にあります。



如來大悲の恩徳は身を粉にしても報ず
八頁にあります。



心に留めておきたいことは、阿弥陀様は「皆平等に浄土へと導きたい」「つらい人生を引き受けていく為にはお念佛（南無阿弥陀佛）」を教えています。

「人間は迷う存在である」と自覚したほうが良さそうです。この迷える私を教えて下さる場が仏の教えであり仏教の存在です。

お釈迦さまは「人生は苦である」「人生は無常である」と説いておられます。約二、六〇〇年前の悟りです。

私たちの人生どうでしょうか？楽しくおもしろい時間より苦しくて辛い方が多いです。

無我とは普通に使う「はかない、むなし」ではなく宇宙すべてのものは一瞬たりとも止まつていらない、常に変化しているといい意味だそうです。あなたも、周りの人達も、地球も、宇宙も常に変化していると

いう事です。真理と言えます。

無我とは、「私というものがない」という意味だそうです。もう少し分かり易く言うと、「私たちは私があると思い、これは私のものと執着して苦しみます」。コロコロと変わる私の心には実体はない、私というものはないというのが無我だそうです。意味深です。仏教だけに説かれた言葉です。

親鸞聖人のこの願いは『勤行集』五十
八頁にあります。

「い」とお一人お一人へ投げかけておられます。報われないと嘆く生き方よりも「私にかけられた願い」に気づいて生きていきましょう。阿弥陀様の願いに報いを生きていくのが報恩講の意義だとの先生の教えでした。

「い」とお一人お一人へ投げかけておられます。報われないと嘆く生き方よりも「私にかけられた願い」に気づいて生きていきましょう。阿弥陀様の願いに報いを生きていくのが報恩講の意義だとの先生の教

春彼岸法要ご案内

まだ寒い日が続いています。皆さまいかがお過ごですか？

今年はコロナウイルスの関係で短縮して一日屋のみでご案内申しあげます。くれぐれもご用心してお参りください。

記

- 日時 三月二十九日（日）午後一時半より

- 講師 念信寺住職



うお弟子さんの臨終の様子が記されています。

関東から京都の親鸞聖人の元へ同行たちが行く途中、覚信坊が病気になつたので、同行仲間は地元に帰れといつ。

しかし、覚信坊はどうせ死ぬものならどこでも死ぬし、治るものなら治るので、京都の親鸞聖人の元で死にたいと言つてお念佛申しながら亡くなつたと

いうのです。

覚信坊にとって死ぬことが問題なのでなく、生死の迷いを出ることが大事だったのです。迷いの生存から出て真実の世界に生まれ、再びこの世に還り仏となつてはたらくそのような生き方がたつた今開けてくる、そのような生き方を選ぶことが大事だったのです。

死は空しく終わる

無意味なものでなく、自我の生存を終え大

死してこそよりよく生きる一大事だった

です。

自我の迷いの日暮

らしからぬ私にと

つて、仏法聴聞の場

はそれがなければ一

日を過ごすこともま



世界からの呼びかけであり、そのことがはつきり聞こえてきたという信心こそが、大きな世界に生きる通路であると教えているのが浄土真宗の教えです。そのため、先人は後生の一大事、人間は死んだらどうなるのかを真剣に求めてきました。

親鸞聖人のお手紙には、覚信坊とい

淨土が西にあると言うのは、私がどこから来てどこへ行くのか、何の為に生きているのかと、生きる根本の意味を教えていました。今の迷いの生存から出て真実の世界に帰り、真実の世界からこの世にはたらくような世界、生き方があることを教えています。

「南無阿弥陀仏」のお名号は、真実の世界からの呼びかけであり、そのこと

がはつきり聞こえてきたという信心こそが、大きな世界に生きる通路であると教えているのが浄土真宗の教えです。

そのため、先人は後生の一大事、

人間は死んだらどうなるのかを真剣に

求めてきました。

精一杯の勤行・法話のお取り次ぎを



上本庄お取越



子供報恩講お斎



燈畑地区お取越



大晦日

お寺の催し・活動

- | | | |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| ● 二正忌・報恩講 十一月二十一～二十四日 未定 | ● 秋彼岸法要 九月二十七～二十九日 六月二十九～七月一日 松月 博宣 師 (糸島市) | ● 皆作永代經彼岸法要 一一〇一〇年 瓜生 崇 師 (滋賀・東近江市) |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------|



あとがき

今年は「未来」をテーマにして誌面をつくりました。高屋小学校の閉校行事準備を地元民はじめ関係者一同、入念に進めてきましたが、「コロナウイルスのためにやむを得ず中止になりました。地元民にとっては閉じる為だけでなく、未来の為の行事でもありました。

今年は暖冬でしたが、それでも念信寺の冬は寒く常時ダウンジャケット2枚着用、現在ようやく1枚に減りましたが、それでも念じずにはいられません。

させて頂きます。ご自愛、ご用心いただいてご聴聞くださいますようご案申しあげます。



1月23日犀川二十八日講於淨真寺



2月犀川同朋会



1月29日淨真寺報恩講



2月19日門徒会 於善徳寺